

《 一関工業高等専門学校との教材開発について 》

本校は、平成 20 年度から独立行政法人国立高専機構一関工業高等専門学校と千葉悦弥教授、中山淳教授のお力をいただき、障がいに対応した教材の開発に共同で取り組んでいます。

教材開発に当たって、本校の職員が児童生徒の実態に応じて、学習支援に役立つと思われる教材の案を考え、教材のイメージを具体的に書いた教材案を作成します。この教材案を基に、教材を作成していただきます（令和元年度までは、一関高専の教員と学生の皆さんに教材を作成していただきました）。幼児児童生徒のみなさんがより操作しやすい教材を作成するために、情報交換を行いながら教材開発を進めています。

これまで、「ハーモ君」（キーボードにつなぐと 5 つのコードで和音奏ができるスイッチ）、「分離型マウス」（児童の手指機能に応じてカーソル操作部分とクリック部分を分けて使いやすく改良したマウス）、「光ってわかるシャトルラン装置」などを製作していただき、学習活動に生かしてきました。

令和 2 年度に共同開発した教材

○自分でスタート・ストップできるルーレット

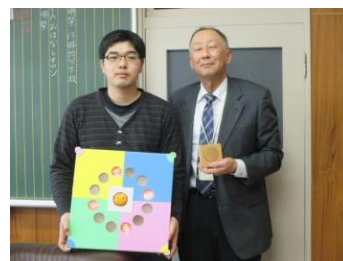
平成 28 年に集会用電子ルーレットを製作してもらい、あすなろ分教室の始まりの会で毎日活用させていただいています。児童生徒の実態から、自分のタイミングでスタートやストップすることで、ルーレットを操作しているというやりがいを感じさせたいと思い、依頼しました。以前のスイッチよりも大きく、カチッと押した感覚のあるスイッチに改良していただく等、より児童生徒の実態に適したルーレットになっています。



これまでに共同開発した教材

■集会用電子ルーレット（平成 28 年）

おにぎりカップなど身近にある材料を使い、専門の知識と技術で、ランプの回転やタッチボタンに改良を加えていただき、より使いやすいルーレットとなっています。あすなる分教室で活用されています。



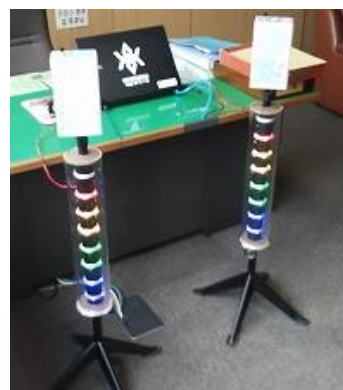
■シャトルラン機器（平成 29 年）

LED 電球を使い、電子音だけでなく残り時間が見えるように工夫されています。また、ランニングなど走った回数の記録もできるようになっています。高等部で活用されています。



■光ってわかるシャトルラン装置（平成 30 年）

聴覚障がいの児童が、体力測定の 20m シャトルランを視覚的アプローチによって正しく測定する装置です。シャトルランの CD の音と同じ間隔で LED 電球が発光し、走るペースがつかめるように工夫されています。



■カウントくん（令和元年）

ボタンを押すことでカウントが音声で再生されます。小学部の児童が一定のペースで歯磨きができるようにと製作していただきました。20 秒程度の音声を録音・再生することができます。

